

2010年度 総合講座(社会科学系)

社会科学のアプローチ  
- 国際学部でどう考えるか -

ガイダンス:趣旨および成績評価

2010年4月9日 岩村 英之

# 本講座の内容

- 国際学部の社会科学(政治学, 経済学, 法学, 歴史学等)系教員から14名が, それぞれの研究「方法」について, 具体例を交えて解説する.
- それぞれが自身の専門分野を紹介していくが, 共通のキーワードは「いかに考えるか」=「方法」である.
- それぞれの講師が, 多様な問い(時には共通の問い)に多様な方法で迫っていることを実感してもらう.

# 「方法」：答えをどう探すか

例：なぜルワンダで大規模な虐殺が起こったのか？  
(フレキャンで議論しましたね)

答え(の可能性)を見つけるために...

研究  
の  
方法

- 当事者たちへのインタビューを試みる.
- 現地ジャーナリストの記述を詳細に検討する.
- 似たような状況で虐殺には至らなかった国を探し、ルワンダと比較してみる.
- コンピュータ等で仮想世界(モデル)をつくり、シミュレーションを行う.



# 高校から大学へ：正解のない世界

高校まで：正解の用意された(決められた)問題。  
いかに速く, 大量に, 正確に記憶するか。

大学以後：正解のない(用意されていない)問題。  
いかに説得力のある答えを導くか。

答えを出すための「方法」=「どう考えるか」が重要。

方法が妥当であれば, 結果として得られた  
答えも説得力を持ち得る。  
あるいは, 答えの候補になり得る。

# 国際学部における方法の多様性

概ね、各学問分野には特有の方法がある。

同一分野の教員が集まる通常の学部では、  
一般に「方法」はひとつである。

一方、多分野の教員が集まる国際学部では、  
「方法」は多様である。

「方法」を意識し、比較する機会がある。

国際学部では「どう考えるか」を選ぶことができる。

国際学部では、複数の方法を学び、「どう考えるか」  
を工夫することも可能である。

# ひとつの方法，様々な問い

あるひとつの方法は，様々な問題に適用可能である。

たとえば「経済学」という方法の適用範囲は...

- 戦争の経済学
- 結婚の経済学
- 犯罪の経済学
- 選挙(投票行動)の経済学
- 教育の経済学

「方法」を学ぶことの効能は決して小さくない。

# 本講座を受講すると...

- 国際学部で学ぶことのできる「方法」を知ることができる。
- 「方法」を学び、その適用を実地訓練するという、大学での勉強の方向性がひとつ明確になる。
- 異なる方法間の連携の可能性、「学際」の可能性について考えるきっかけになる。  
「A先生の問いにB先生ならどうアプローチするだろうか」とコラボレーションを考えてみるのも楽しいでしょう。
- ゼミ選択の基準として「方法」という視点を持つことができるようになる。→ ゼミの選択肢が広がる

# スケジュール

4月9日	岩村	6月4日	森本先生
4月16日	司馬先生	6月11日	孫先生
4月23日	戸谷先生	6月18日	平山先生
4月30日	岡部先生	6月25日	熊本先生
5月7日	末内先生	7月2日	網谷先生
5月14日	吉井先生	7月9日	田先生
5月21日	合場先生	7月16日	予備日
5月28日	浪岡先生		

各回の詳細は下記ウェブページをご覧ください。

[http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/class/sougou\\_10/sougou\\_10.html](http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/class/sougou_10/sougou_10.html)

国際学部のウェブページ「教員紹介」の岩村のページから行くこともできます。



# 成績評価

リアクションメモの内容と出席回数を合わせて、  
各人のパフォーマンスを評価します。

出席点 + 評価点(リアクションメモ) = 総合点



成績(S, A, B, C, F)

出席点: 1回につき3.5点。全て出席で49点。

評価点: 毎講義の終わりにリアクションメモを提出。  
講義担当者が4点から0点の間で内容を  
評価する。

- ◆ 以下、成績評価の方法については同じ文書をウェブページに置いておくので、適宜参照すること。

# リアクションメモの評価基準

## リアクションメモに書くべき内容

- (1) 関心を持った点・疑問を持った点の詳細
- (2) なぜ関心・疑問を持ったのか
- (3) その他雑感など加えても構わない

特(4点)：講義の内容を拡張した考えを提示している。

優(3点)：講義の内容を理解し、適切な考え・疑問を提示している。

良(2点)：講義の内容は理解できている。

可(1点)：講義を聞いていたことは認められる。

不可(0点)：講義を聞いていたとは認められない。

# 学生諸君とのインタラクション

- 毎回いくつかのリアクションメモを選び、担当教員のコメントを付してウェブページで公開する。  
( \* 匿名・誤字脱字はこちらで修正 )
- 本質的な質問等に対しては、ウェブページを通じて回答がなされる場合もある。
- ウェブには参考文献など随時追加していきます。
- Twitterのハッシュタグを利用することも検討中。

# 注意

- リアクションメモが「不可」であっても出席点は獲得できる。
- リアクションメモの内容・評価基準は講師によって異なる場合もある。講師の指示がある場合は注意すること。
- リアクションメモを後日提出することは一切認めない。
- リアクションメモを提出しない場合は「欠席」扱いとなる。
- リアクションメモは、講義終了15～20分前に配布される。したがって、途中退室は欠席扱いとなる。
- いわゆる「E評価」はないので注意すること。

# リアクションメモの実例(1)

2009年度総合講座の岩村担当回「欧州通貨統合の政治経済学」に対するリアクションメモから

金融政策統合の負の側面についての話は、特に興味深く、面白かったです。今まで経済について勉強した際は一国の状況のみを見ることが多く、景気過熱時に流通通貨量削減、停滞時は逆に増加させればよいとだけ理解していましたが、経済統合によってその理論を利かせることが出来なくなる可能性があるのだと理解しました。

最近、ズボンを購入した際にインチ表記やセンチ表記など国によって異なるのは分かり難いから、全てのことに世界共通の基準があればと思っていたのですが、貨幣に関しては必ずしもそうではないんだなと思いました。

( \* 一部変更 )

## リアクションメモの実例(2)

最近、経済学について興味が出てきたので、今日の講義は高いモチベーションをもって受けることができました。今までは、通貨統合をすると、ただ単に旅行するときに便利になるくらいにしか考えていませんでしたが、最終的にはそんな単純なことではなく、お互いの国のその時々状況や内政によっても大きく左右されるものであり、必ずしもプラスの側面だけではないということを知りました。

通貨統合をするには様々なリスクがあり、日本もいつかやることになったら色々大変だろうなとも思いました。

( \* 一部変更 )

# リアクションメモの仮想例

アジアでも、欧州のユーロのような共通通貨が誕生した場合、日本は参加することでどのようなメリット・デメリットを享受するのだろうか。今後、経済学を勉強して自分なりに考えていきたいと強く思った。

今は大変な不況だが、経済の知識は、これからの生活設計にとっても重要であると感じた。現在の世界的な不況の原因を知るために、国際経済についてさらに深く勉強しようと思った。

# 文献紹介

飯田泰之(2003),『経済学的思考の技術』,ダイヤモンド社.

S.レヴィット, S.ダブナー, 望月衛・訳(2007),『ヤバい経済学  
増補改訂版』,東洋経済新報社.

大竹文雄(2008),『こんなに使える経済学』(ちくま新書),  
筑摩書房.

小島寛之(2009),『使える! 経済学の考え方』(ちくま新書),  
筑摩書房.

O.キング, R.コヘイン, S.ヴァーバ, 真淵勝・監訳(2004),  
『社会科学のリサーチデザイン』,勁草書房.